

ごあいさつ

本日はご多忙の中ご来場頂きまして誠にありがとうございます。

今般のコロナ禍により倒産や転職で裏方スタッフが減少してしまうのではないかと、ひいては宮城の舞台芸術の減少や衰退に繋がるのではないかとこの危惧からジャンルの枠を超えて結集し「宮城舞台技術者協会」を立ち上げました。

その後も一向に好転しない状況が長引く中で様々な情報を集め、数少ない劇場での仕事のデータを記録し、アンケート調査や意見交換を行って参りました。

そこから見えて来たのは、劇場施設に様々な形で関わるほぼ全ての方々が「催し物開催にあたり明確な指針が無く、どうしたら良いか分からずに困っている」という事です。

またその様な活動の中、舞台芸術に関心をお持ちで、昨今の窮状を憂慮されている宮城県と仙台市の議会議員の方々との出会いが有り、御助言を頂いて要望書をお渡しする事も出来ました。

本日は舞台芸術を愛する様々な分野の専門家の皆様にもご参加頂き、どうしたら安心・安全に劇場を使用する事が出来るのかを、御来場の皆様と共に検証し考える会に出来たらと思います。決して私達が皆様に正解をお示しするものではございません。今の状況に於いては一步間違えると何方かの命を危険に晒す可能性をも含んだ企画の開催である事の自覚はございます。

ですが、それでも私達は恐る恐るながらも慎重に、極めて慎重に「一步」を踏み出してみたいと思います。その「一步」は2mのディスタンスを遥かに超えてくれると強く信じます。

皆様がそしてお客様が、笑顔で劇場へ向かう「一步」を踏み出す為の一助にこの企画がなれば幸甚でございます。

宮城舞台技術者協会

劇場へ行こう！ コロナ時代のバックステージツアー

日 時／2020年8月26日（水）18：00開演

27日（木）14：00開演

会 場／日立システムズホール仙台 シアターホール

司 会

茅根 利安（ココロノキンセンアワー）

話し手

赤羽 ひろみ（企画・制作）

庄司 遥（株式会社 HAL PLANNING）

中井 健一朗（MS 南東北株式会社）

今野 芳明（宮城舞台技術者協会）

宮城舞台技術者協会員

次 第

概要説明（エントランスにて）

ロビーの感染防止対策について

感染防止対策商品について

客席の感染防止対策について

第1部

アンケートへのご返答

事例紹介

宮城県と仙台市への要望活動のご報告

（休 憩）

第2部

楽屋に関する感染防止対策について

質疑応答

閉会

主催／宮城舞台技術者協会

助成／公益財団法人仙台市市民文化事業団

今回の「劇場へ行こう！コロナ時代のバックステージツアー」の開催にあたり、皆様にアンケート調査へのご協力を頂きました。寄せられた内容は多岐に渡りまた重く深い物で、とても私たちが軽々にお答え出来るものではありませんでした。そこで舞台芸術を愛する専門家の方々にご登壇頂いて直接皆様のご質問にお答え頂く事に致しました。本日も登壇頂く皆様は、後程舞台上でご紹介させていただきますが、残念ながらお仕事の御都合で御越し頂けなかった宗像靖彦先生の御紹介と、質問へのお答えを紙面にしてお伝え致します。

宗像靖彦先生

医療法人総志会理事長、免疫学とウィルス学がご専門。

米国ハーバード大学で研究され、東北大学病院で賀来満夫先生の下で勤務される。

一方で舞台芸術にも造詣が深く、舞踊評論家の山野博大先生と共に「バレエダンサーの医学管理・コンサルテーション」を行い、日本の舞踊文化の発展に寄与されてます。

二人のお子様はバレエダンサーとして日本とアメリカでご活躍中。

宗像先生からのお答え

(2020年8月18日)

【総論】そもそも人類にとって、ウィルス感染は避けられない問題です。新型コロナウイルスがこれほどまでに話題となっているのは、人類がはじめて遭遇するウィルスで、誰もが免疫を持っていないからなのです。ウィルスと人間は共存すべき関係にあります。人類がこれまでに撲滅し得たウィルスは「天然痘」くらいでしょうか？今回の新型コロナウイルスのパンデミックにおいて最も懸念すべきことは、共存関係が成立するまでのスピードなのです。多くの感染者が一斉に重篤になってしまったら、医療が崩壊します。新型コロナウイルスが致死性の高いウィルスだった場合、この点が最も心配だったのです。世界各国でとられたロックダウン政策は、感染者の急増による医療崩壊を防ぐことが目的であり、各個人のウィルス感染防止が目的ではないのです。最近の感染動向を見ていると、無症状の感染者が多く、感染者増加のわりに死亡者の増加はさほど目立ちません。これは、新型コロナウイルスが遺伝子変異をおこして、毒性を弱めているからなのかもしれません。この傾向から推測すると、パンデミック発生当初と状況は変わってきていると考えられます。

【各論】

Q1 実際に舞台や楽屋で体調不良者が出て、その方がまだコロナ感染者かどうか分からない時に、どのように対処したら宜しいでしょうか？

A1 この場合、周りの関係者は患者さんを新型コロナウイルス感染者とみなして対応することになります。まず、「患者さん」にサージカルマスクを装着してもらいます。問診・検温を行う方は最低、サージカルマスクを装着して対応します。対応後は手を自分の肩より上にあげないようにして手指消毒を行ってください。患者さんに関する相談窓口は「帰国者接触者対応窓口」です。ご家族に連絡するとともに、ここに連絡して指示を受けてください。患者さんの隔離は換気のできる個室(楽屋)として、対応者(問診・検温係)は一人だけにしてください。

Q2 その後、どのタイミングで保健所からの指導が来るかによって催し物の開催か中止かの判断をしなければならない事も大きな不安材料です。

A2 保健所からの指導などは患者さんのRT-PCR結果が判明してからになりますので、早くても2日後となります。催し物の開催・中止の判断は主催者に委ねられます。中止を決定するのであれば簡単ですが、続行を決定するためにはそれなりの論理が必要でしょう。患者さん(この場合新型コロナウイルス感染者とみなします)の動線上で「濃厚」接触した関係者が問診・検温係以外0であるなら続行可能と思われます。

Q3 食事・化粧における感染対策

A3 箸、コップ、メイク道具の共用はしないこと。ウィルスは鼻・口・気道粘膜からのみならず、目の粘膜からも感染します。

Q4 劇場消毒のタイミング

A4 空間消毒は現実的に不可能と思いますので、劇場・楽屋使用前に手袋をして、出演者・関係者が手を触れそうな箇所をアルコールで拭いてください。

Q5 飛沫感染・接触感染防止の具体策

A5 話をする際にはマスクを着用すること、相手に触れる際には首から上に触れないこと。

Q6 感染対策の根拠

A6 人の体液は基本的にウィルスに感染されており、粘膜を通して伝搬することが知られているのでこの概念をイメージして感染対策がなされます。

Q7 バックステージでの感染予防策の目安

A7 密集、密閉、密接、3密を避けることが基本です。

Q8 食事・飲食物の取り扱い

A8 弁当の包装を介した感染が危惧されますので、基本は自己責任で調達が原則です。どうしても発注弁当を提供しなければならないときには、到着した弁当を配布する係は手指消毒をしてから配布する。食べるときには包装・蓋を全て取った後にもう一度手指消毒を行ってから食べること。

Q9 衣裳・小道具

A9 衣裳は床に置かず、ハンガーに掛けること。小道具を扱う際には手袋を装着するのがベスト。演出の関係で素手で扱わなければならない時には扱った後、手を肩より上にあげずすぐに手指消毒を行う。

Q10 消毒方法・安全の基準

A10 消毒方法は流水（石鹼）・アルコール・適正濃度の次亜塩素酸水となります。安全の基準としては、ウィルスの侵入部位は鼻・口・目なので、これらの部位にウィルスを近づけないことです。飛沫感染と手を媒介（化粧が大きなリスクです）とした感染に注意を払うことです。

まだまだ十分な説明にはなっていないと思います。リアルタイムの質疑応答が可能なら一番良いのでしょう。私でお手伝い出来ることがありましたら、何なりとお申し付け下さい。

以上が宗像先生からの答えになります。本日会場から感染医学に関するご質問があれば宗像先生にお伺いして、後日ご返答させて頂くことも可能ですのでふるってご参加下さい。どうぞ宜しくお願い致します。